

山頂の標高:1491m・1567m・1673m

# 初夏の塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳

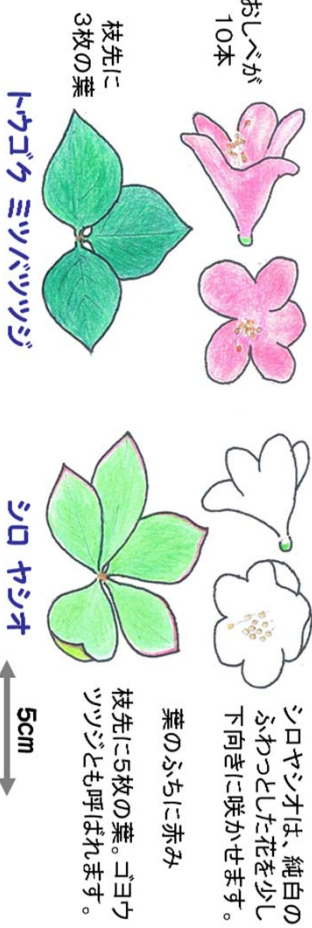
たんざわ 丹沢

ひるがたけ 蛭ヶ岳

## 百名山自然ガイド

1 5月半ば、丹沢の山の上では、2つのツツジ(赤紫色のトウゴクミツバツツジと真っ白なシロヤシロ)が、たくさんの花を枝いっぱいに咲かせます。一年の中で、丹沢の山が一番はなやかな季節と言えるかもしれません。

トウゴクミツバツツジ  
中腹に咲くミツバツツジとそっくりですが、おしべが10本あって多い(ミツバツツジは5本)ことや、葉柄(ようへい)葉と枝をつなぐ部分)がごく短いところがちがいます。



トウゴクミツバツツジ

シロヤシロ

枝先に3枚の葉

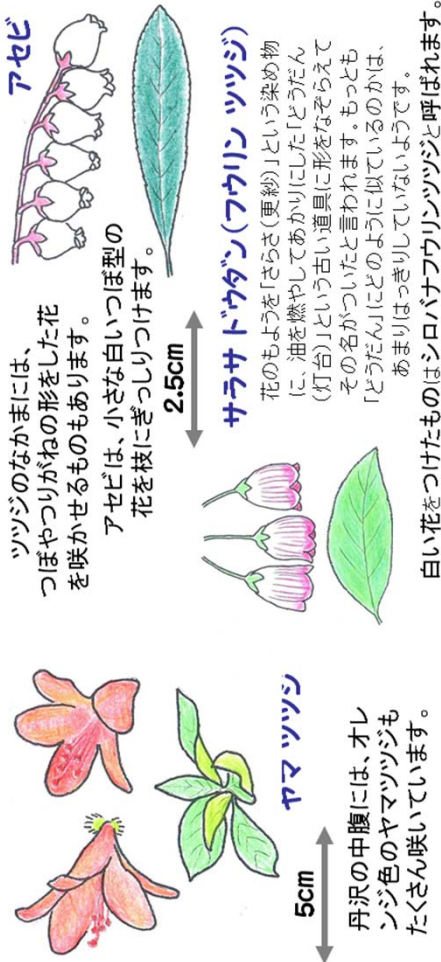
葉のふちに赤み

おしべが10本

シロヤシロは、純白のふわたした花を少し下向きに咲かせます。

## 初夏の花：トウゴクミツバツツジとシロヤシロ

## ヤマツツジとつぼ型やつりがね型のツツジ



ツツジのなかまには、つぼやつりがねの形をした花を咲かせるものもあります。アセビは、小さな白いつぼ型の花を枝にぎっしりつけます。

2.5cm

サラサドウダン(フウリンツツジ)

花の模様を「さらさら(更紗)」という染め物に、油を燃やしてあかりにした「どうだん(灯台)」という古い道具に形をなぞらえてその名がついたと言われます。もともと「どうだん」にどのよう似ているのかは、あまりはっきりしていません。

白い花をつけたものはシロバナフウリンツツジと呼ばれます。

5cm

ヤマツツジ  
丹沢の中腹には、オレンジ色のヤマツツジもたくさん咲いています。

## 初夏の鳥：ホトギス、ツツドリ、カッコウ



3種とも  
頭や背中が灰色、つばさや尾羽は黒っぽく、尾羽に白い点々のもよう

胸～腹にかけて黒い横すじが細くてたくさん

大きな体(キジバトやドバトくらい)

胸～腹の横すじは太め

大きさは中くらい

胸～腹にかけての黒い横すじは太めで少ない

小さな体(ヒヨドリくらい)

ホトギス

10cm

3種とも姿や色がよく似ていますが、体の大きさや、胸～腹のしまもようがちがいます。

初夏の丹沢には、ホトギスやツツドリの声がひびいています。同じ仲間のカッコウや、聞きなれない名前かもしれませんが、ジュウイチという鳥の声が聞こえてくることもあるかもしれません。ぜひ、耳を澄ませてみましょう。

### ふしぎな性質：託卵(たくらん)

○ホトギスの仲間、初夏は、海を渡って南の国から帰ってきます。そして夏が終わると、また南の国へ出てきます。日本の寒い冬が苦手なようなのですが、ごちそうにしている小さな虫(主に毛虫)がいなくなってしまうのが、一番困ることのようです。

○ホトギスのなかまは、他の小鳥に自分の卵を育ててもらいます。卵を暖めている巣からその親鳥がちよつと離(はな)れたすきに、巣にある卵と自分の卵を取りかえてしまうのです。

○卵を育ててもらった相手は、種類によつてちがつています。ホトギスはウグイスなど、ツツドリはセンダイムシクイなど、カッコウはモズなど、ジュウイチはオオルリなどに親代わりになってもらいます。しかし、生みつけた卵が放り出されたり、その巣の親が戻ってこなくなる場合もあり、子供が育つかどうかは分かりません。

○自分たちが亡びてしまわないかどうかのカギを他の鳥にあずけてしまうのですから、そんなことになった進化の道すじにどんないさづがあつたのか、ふしぎです。

山にはあまり見かけないセミが住んでいます。小鳥とはちがう聞きなれない鳴き声を耳にしたら、それはセミの声かもしれません。

## 山で鳴くセミ：ハルゼミとエンハルゼミ

エンハルゼミは、お日さまが大好き。主に6〜7月、山の上の林に日がさすと、大合唱が始まります。

2.5cm

ハルゼミの鳴き声

エンハルゼミの鳴き声

(実際には、ハルゼミは3オクターブ、エンハルゼミは2オクターブほど高い音が大々出ています)

主に5〜6月、山の中で地味な声で鳴いているのがハルゼミです。でも、それとまるでちがう、鈴を鳴らすような澄んだ高い音も出ています。人に聞こえる限界に近い高さなので、聞こえたら自慢かもしれません。

鳴き声をごとで表すことを「聞きなし」といいます。ホトギスの仲間だけでなく、いろいろな鳥がそれぞれ持ちようのある声で鳴いています。何と鳴いているか、新しい聞きなしを自分で作ってみるのはいかがでしょう。

### ホトギスのなかまの鳴き声比

トツギよ きよか きよく  
てんべん か け た か  
キョッ キョ キョ キョ キョ

(実際には、これより1オクターブほど高い音が大々出ています)

ホトギスのなかまの鳴き声比

トツギよ きよか きよく  
てんべん か け た か  
キョッ キョ キョ キョ キョ

カッコウ 鳴き声が、そのまま鳥の名前になりました。かんどどり(閑古鳥)と呼ばれることもありますが、これも、鳴き声を「かんどり」と聞いて付けられた名前です。

ツツドリ 「ぼーぼー」とか「ぼんぼん」とか、竹筒をたたくような、よくよく音が山の中に広がつたら、それはツツドリの声です。鳴き声そのものではありませんが、ツツドリの名前が、その声から付けられたことは言うまでもありません。

カッコウ 鳴き声が、そのまま鳥の名前になりました。かんどどり(閑古鳥)と呼ばれることもありますが、これも、鳴き声を「かんどり」と聞いて付けられた名前です。

ジュウイチは、胸〜腹のオシロイジ色が目につきます。その姿にはツカのような風格がありますが、口ばしは細長くツカとはちがいで、他のホトギスのなかまと同じように、毛虫などをつまむのに都合のよい形をしています。

### 初夏の鳥：ジュウイチ

#### おとなのジュウイチ

胸〜腹がオシロイジ色

ホトギスのなかまでは中々らしい大きさ(ツツドリくらい)

目のまわりが黄色

#### ジュウイチの子ども

子どもは、背中やつばさ、尾羽などが、全体に茶色がかったいます。

子どものうちは、胸〜腹は白くて、たて長の黒っぽい点々もよがあります。

ツカのようなものもいます。ツカに似せて、まわりに強そうに見せかけることが、子どもが生き残るのに役だつようです。

「十一」という名前や「慈悲心鳥(じひしんちよう)」という別名は、その鳴き声からついたにちがいありません。

ジュウイチの鳴き声

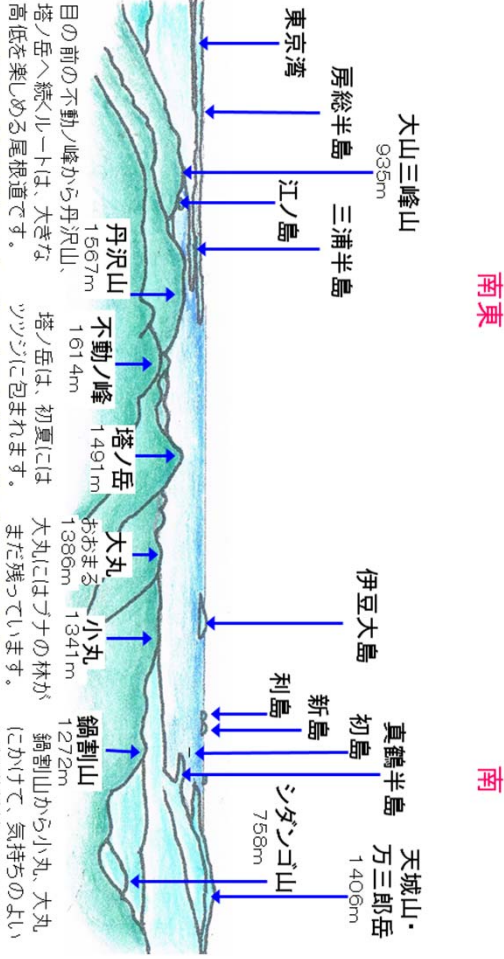
じゅ い ち い  
じゅ う し ん

(実際には、これより2オクターブほど高い音が大々出ています)

10cm

9 蛭ヶ岳の高さは1673m。丹沢で一番高い山です。山頂には、逆光で光る相模湾や、富士山、南アルプス、奥秩父、北関東へと続く山々の、雄大な展望が広がります。

展望図は、高低が分かりやすいように、上下方向を1.5倍に強調してあります。尾根道が続いています。



南 南東

### 蛭ヶ岳山頂からの展望 南～南東

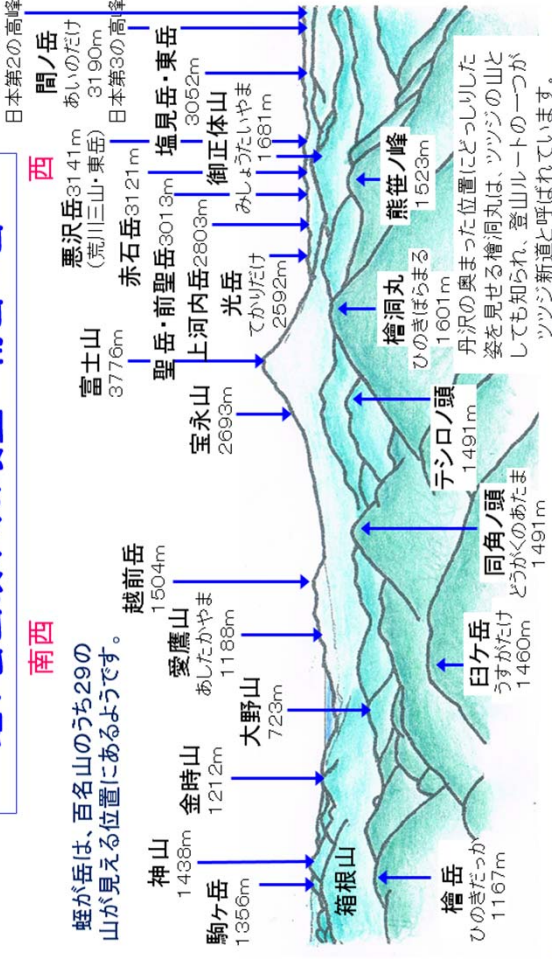
8 真夏には、エゾゼミの鳴き声も聞けるかもしれません。主に山の中腹で、力強い声で鳴きます。同じく、エゾゼミやアカエゾゼミもいます。♩

エゾゼミのなかまの鳴き声比 (3種とも、3オクターブほど高い音が大きく出ている)



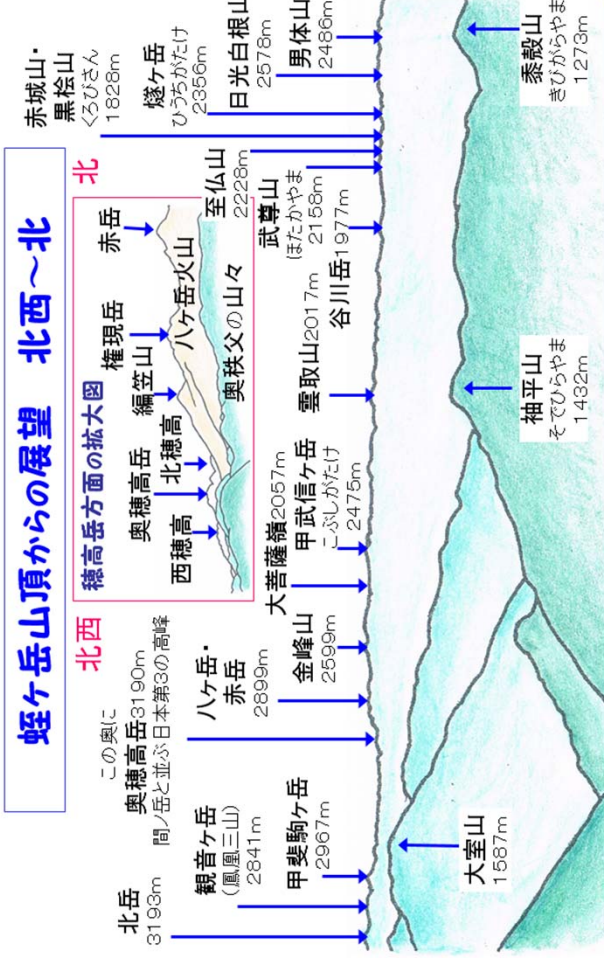
### 山で鳴くエゾゼミの仲間

10 蛭ヶ岳は、元々は「びるがたけ」という名前だったようです。仏教や修験道で大切にされる「びるしゃな仏」にちなんで名付けられたのではないかと、言われます。



南西 西

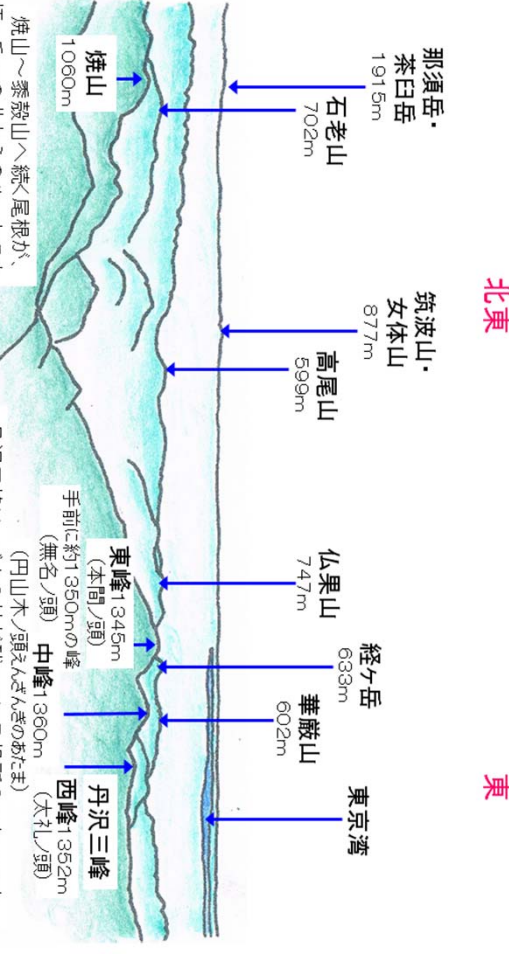
### 蛭ヶ岳山頂からの展望 南西～西



### 蛭ヶ岳山頂からの展望 北西～北

11 丹沢の北西方向に八ヶ岳がありますが、その左側、もつと手前の山の稜線(りょうせん)の奥に穂高岳が位置します。抜群のお天気の日、姿を見せてくれるかもしれません。

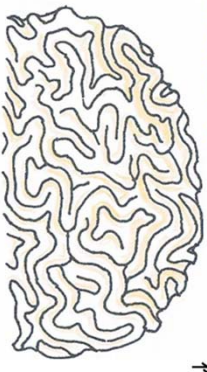
ツナの美しい原生林に包まれた丹沢の山々でしたが、1970年代から立ち枯れが目立ち始め、丹沢山や檜洞丸など、さいぶん様子が変わってしまいました。



蛭ヶ岳山頂からの展望 北東～東

12

今から1600万～1300万年くらい前、丹沢の地は、サンゴが育ちオウムガイが泳ぐ亜熱帯の海の中でした。近くには海底火山や火山島があり、溶岩が流れこんできたり、火山灰が海底に積もったりしていたことが、丹沢の山を作っている岩を調べることから分かります。それから長い長い年月をかけて丹沢のせた岩盤が日本列島に近づいてきて、やがてそこに付け加わったらしい、と考えられています。



サンゴのなかま



オウムガイのなかま

サンゴの中には、迷路のようなひだを作るものがあります。中に住んでいるたくさんのサンゴの個体が、海水からカルシウム分を取り込んで、ひだのような壁(かべ)を共同して作ります。

オウムガイは、イカやタコに近い生き物です。巻貝のような「から」を作って、その中に入っています。

丹沢では、サンゴやオウムガイの化石が見つかっています。丹沢が、大昔には南の海にあった証拠(しやうこ)とされています。

岩を見て分かる丹沢の歴史

「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることをお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。丹沢では、四季それぞれに分けた案内を下記に掲載しました。機会がありましたら、どうぞご利用ください(http から https へ変更しました)。  
<https://yama3823.com/100meizan/tanzawa/index.html>  
 なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただくと嬉しいです。 yama\_3823 @ yama3823.com (メール送付のときは、添付ファイルはつけないようお願いいたします)

- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。
  - ほとんどの山で、登山届の提出が求められています。予定のコースや日程を、入山前に届け出ましょう。
  - 動植物や岩石の採取等が禁じられている区域がたくさんあります。そうでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
  - ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。ごみは各自で持ち帰りましょう。
- 2022年5月作成 11月修正: © 百名山の自然ガイドを作る会 14

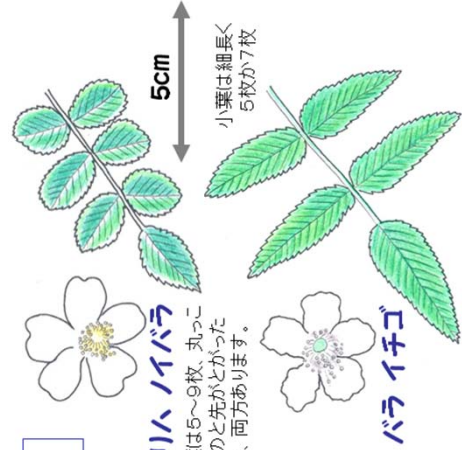
山の上に咲くバラのなかま

登山道の足もとをわざとるように咲く花を集めてみました。



岩場に咲く小さい花(直径1cmくらい)なら→イワキンバイ  
 花が小さめで小葉が5～9枚あったら→キジムシロ  
 小葉は5枚か7枚が多いが、先端の3枚以外はごく小さく地面をばう茎をもっていたら →ツル キジムシロ  
 小葉は3枚、花びらの後に大きな副がく片→ヘビイチゴ  
 小葉は3枚、花の色が白→シロバナヘビイチゴ(モリイチゴ)

このなかまは小葉(しやうよう)と呼ばれる葉をもっていきます。元々は1枚の葉でしたが、何枚もの小葉とそれをつなぐ、枝や茎に見えるものに変化しました。



小葉は5～9枚、丸っこいものと先がとがったもの、両方あります。  
 小葉は細長く5枚か7枚  
 小葉は先がとがり、3枚か5枚、花びらの後の「がく片」という部分が長く伸びています。  
 小葉は3枚、花の色が白→シロバナヘビイチゴ(モリイチゴ)

3方向に突き出した葉をもつニガイチゴ、3方向のうち中央が細長く伸びたミヤマニガイチゴというものもあります。